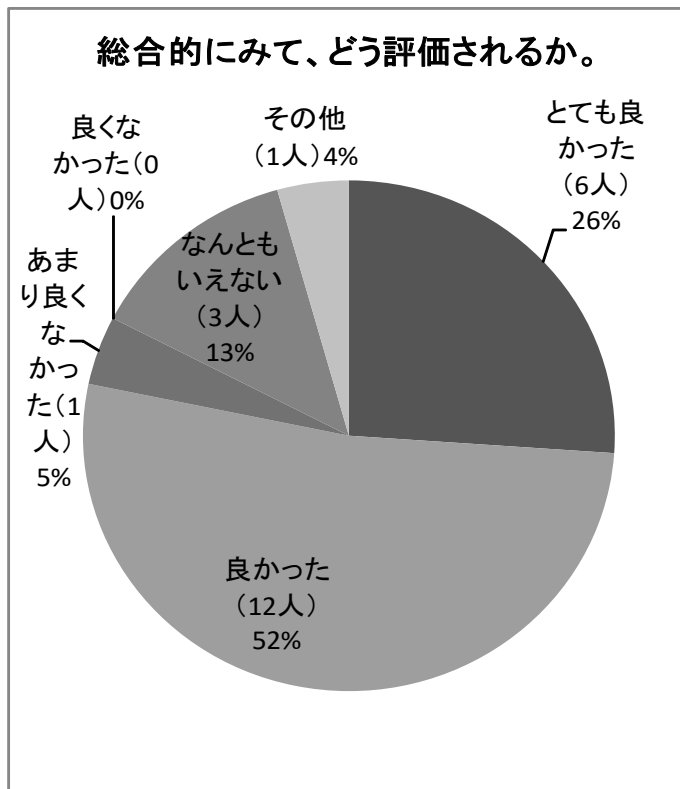


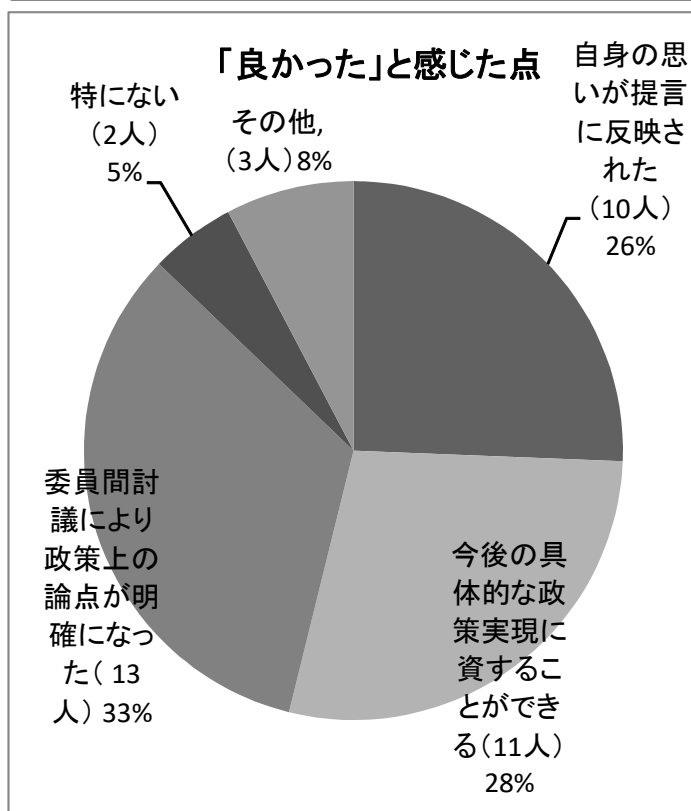
「政策提言型特別委員会」所属議員アンケートの集計結果

(アンケート回収数23 / 全該当委員数24)

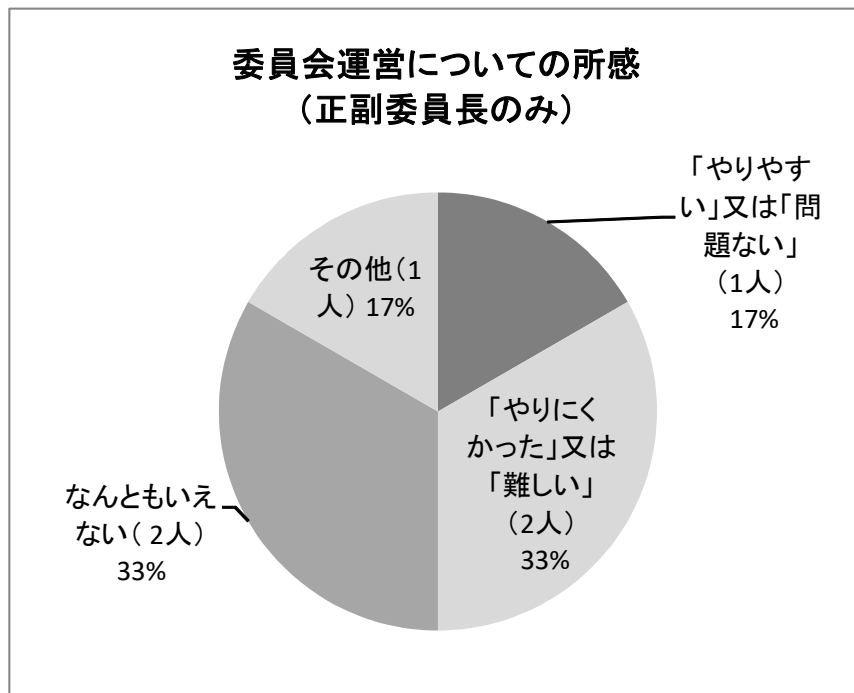
1 令和元年度の「政策提言型特別委員会」試行について



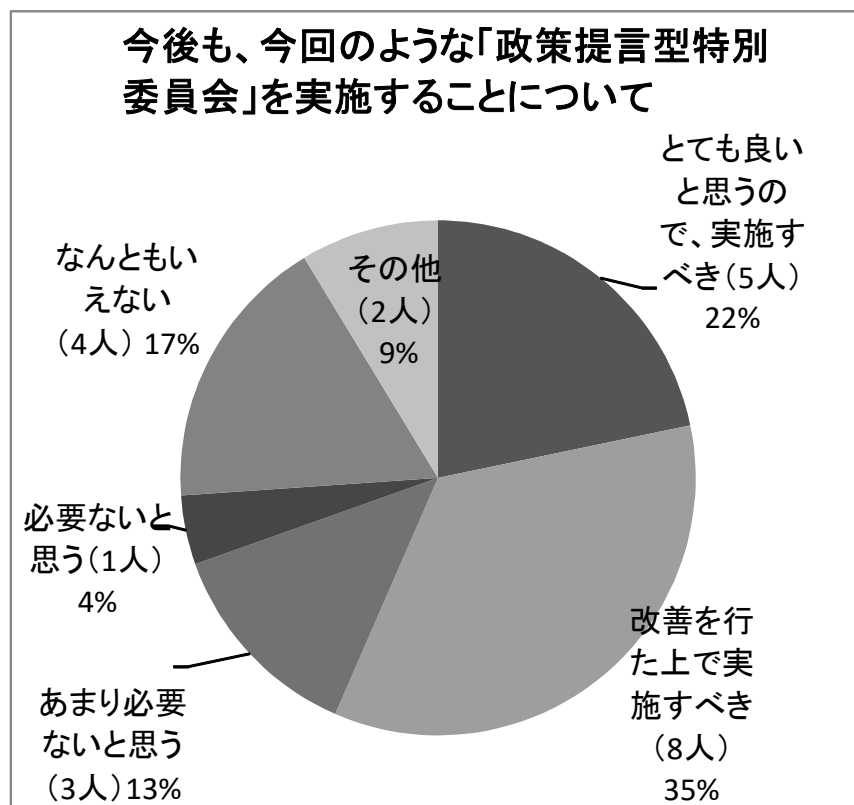
※いずれか1つの選択肢を回答



※複数回答あり



2 今後の取組について



自由記載欄に記載された主な意見

1 R1年度の試行についての意見（振り返り）

<取組を評価する意見>

- ・ 少しテーマを広くしたが、提言に繋げられた。
- ・ 委員会討議はとても良かった。また、参考人からの意見聴取や視察調査にも、今まで以上に目的意識を持つことができた。
- ・ テーマを絞り込んで、課題を深堀りできた。
- ・ 全委員が提言という目的を共有することが建設的な議論につながった。
- ・ 現地・現場の意見が反映された点がよかった。
- ・ 議員間討議により、直接各委員の考えを聞くことができ、それぞれにテーマに対する焦点が異なっていたことが明らかになったことが良かった。

<消極的評価、課題等の意見>

- ・ 開催回数が制限されている上、各会派の思惑も加わって、政策提言のテーマの選択を決めるのが大変だった。
- ・ 議論のための時間が少なかった。また、会派間の調整を要するため、提言内容が薄くなった。
- ・ スタートの段階でテーマの絞り込みを十分にできなかった。
- ・ テーマが広すぎ、1年間ではまとめるには無理があった。
- ・ 府に対する政策提言であるのに理事者を含めた議論が深められなかった。
- ・ テーマの選定について委員会運営が迷走していた。
- ・ 第1回目から対立していた論点について、取扱いが決まらないまま最終盤まで回が進んでしまった。
- ・ 委員間討議は各委員が自分の主張、考え方を述べるため、焦点が一時広がりすぎた。

<その他の意見>

- ・ 提言の方向性やまとめ方、事務局との意思疎通については正副委員長の経験と技術を要する。
- ・ 論点整理も含め正副委員長の責務が大きい。

2 今後の取組についての意見

<今後の実施に関する意見>

- ・ 政策提言型を全ての委員会で実施すべきである。今回の2つの委員会の進め方を参考にすれば、議員力向上にもつながり政策上の論点も見えてくる。
- ・ まずは正しい知識を学ぶということが大切なテーマもあると思うので、政策提言型にこだわらず、テーマによっては柔軟に選択することも重要だと考える。
- ・ 議会として提言が必要なテーマでないものもあり、「政策提言型」と決める必要はない。研究・調査中心でよい。

<今後の方向性・改善案>

- ・ 最後の詰め段階（2定）にならないと、委員間討議でもあまり意見が出なかったもので、もっと早めから議論が必要である。
- ・ 一年という短い期間なので、次年度にどう引き継ぐかを検証すべきである。
- ・ 提言した内容が府政にどのように活かされたか文面で返してほしい。
- ・ 委員会の開催回数を増やすべきである。
- ・ 対立する論点は別途協議の上整理が必要である。
- ・ もう少し各議員、参考人、理事者間で議論ができれば良い。
- ・ ①「テーマを決める」②「意見の一致をはかる」の2つを1年で行うのは難しく、中長期の議論も検討すべきある。
- ・ 対立する論点については、毎委員会でその扱いを決定する必要がある。
- ・ テーマは1つに絞った上で、テーマに沿って多角的に意見を聴取できるよう参考人を招致してはどうか。
- ・ 次のような手順で進めることがよいのではないか。
 - ①テーマ・論点を初回委員会で絞る（正副で）
 - ②論点がズレた場合、その都度委員長が整理する。
 - ③残り3回の委員会でまとめる。
 - ④時間不足が生じる場合、別途委員会を持つ。
 - ⑤まとめられる範囲でまとめ上げる。